令和３年　９月　１３日

令和３年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立五代小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。
こうした考えから，令和３年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。
また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和3年5月27日(木)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）
中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語	１０１人	算数	１０１人	理科　１０１人
第５学年	国語	１２１人	算数	１２１人	理科　１２１人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

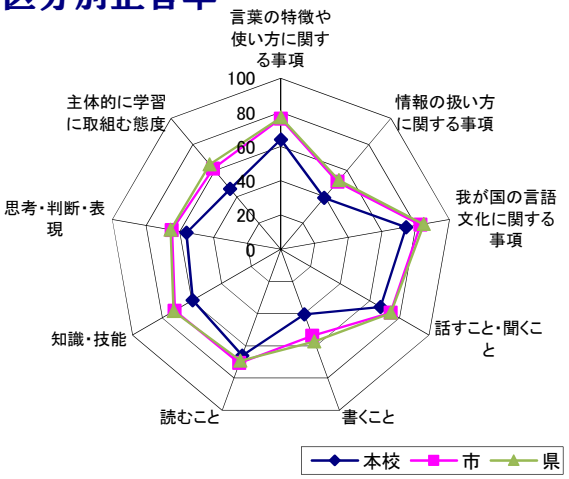
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立五代小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.2	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	39.3	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	74.3	82.8	84.7
	話すこと･聞くこと	67.3	74.1	74.2
	書くこと	40.3	53.7	57.2
	読むこと	66.0	70.7	69.2
観点	知識･技能	59.5	71.6	72.3
	思考･判断･表現	56.0	64.6	65.4
	主体的に学習に取組む態度	46.1	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

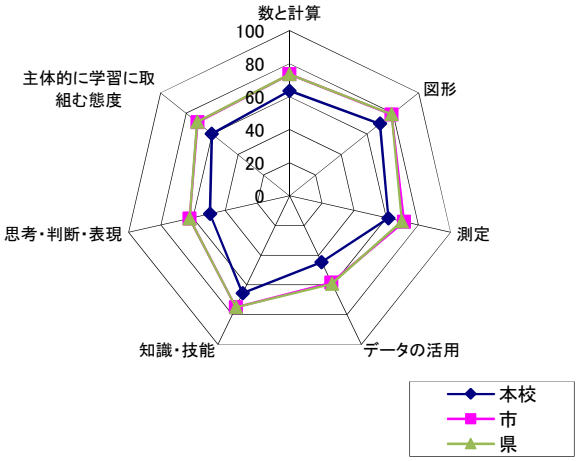
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，県･市の平均値を下回っている。 ○漢字の書きについて，「温かい」は，県の正答率と同程度の80.2%だった。 ●漢字の書きに関して，「予想」「庭」は，県の正答率よりも17ポイント以上低い。	･既習の漢字が定着するように，朝の学習や家庭学習で繰り返し練習する。また，漢字を学習するときには，教師が書き順を示し，読み方を確認するなどして，重点的に指導する。 ･日常的に文を書くときには，習った漢字を使用して書けるよう指導する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，県･市の平均値を下回っている。 ●言葉の学習で，国語辞典の使い方の理解については，半数以上の児童が正答できているものの，県の正答率を下回る。 ●調べたことを文章にまとめることについて，情報と情報との関係の理解し，中心となる語や文を見つけて要約する設問は，県の正答率よりも17.7ポイント低かった。	･分からない語句が出てきた場合は，日常的に辞書で調べる習慣をつけさせる。国語辞典を使う機会を増やし，語彙を広げられるようにする。 ･文章の中から必要な語を選び，要約文を書く活動を多く取り入れ，文章を要約する力が身に着くようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，県･市の平均値を下回っている。 ○言葉の学習で，漢字のへんやつくりの理解について，県の正答率は下回ったものの，70%以上の児童が正答できている。	･漢字を学習する際に，へんやつくりなど部首についての指導も行うことで，漢字の理解をさらに深められるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，県･市の平均値を下回っている。 ○話し合いの内容の聞き取りで，話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることについての正答率は，県の正答率と同程度の72.3%だった。 ●話し合いの内容を聞き取り，相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話すことについての設問は，県の正答率よりも9.8ポイント低い。	･学校生活でのあらゆる“話す･聞く”場面において，それぞれの共通点や相違点に気付かせたり，話を整理しながら聞いたりできるよう指導する。 ･自分の考えを伝える際には，その根拠を明確にし，筋道を立てて話すことができるよう指導をする。相手意識をもたせ，どのように話したらより伝わりやすいかを考えながら話せるような支援をしていく。
書くこと	平均正答率は，県･市の平均値を下回っている。 ○目的を意識し，集めた材料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にすることについての設問は，県の正答率より2.2ポイント高い。 ●指定された長さで文章を書く設問は，県の正答率よりも26.8ポイント低い。	･文章を書く際には，自分が書きたいことの内容をはっきりさせて，「初め」，「中」，「終わり」の順で内容を整理した書き方ができるよう指導する。 ･まず自分の考えをしっかりと持たせ，その根拠を明確にしながら，文章に表せるような指導をする。
読むこと	平均正答率は，県･市の平均値を下回っている。 ○説明文の内容の読み取りで，叙述を基に段落の内容を捉えることについての設問は，県の正答率よりも2.8ポイント高い。 ●説明文の内容の読み取りでは，叙述を基に文章の内容を捉えることについての設は，県の正答率より13ポイント低い。	･段落ごとに書かれている要点を押さえたり，あらすじを確認させたりするなど，内容を捉えながら読む習慣が付くよう指導する。 ･朝の読書の時間などを活用し，文章を読むことの楽しさを味わわせながら，読み取る力の育成につなげる。

宇都宮市立五代小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.6	73.5	73.6
	図形	70.0	79.0	79.1
	測定	61.4	71.1	69.8
	データの活用	44.6	58.4	59.2
観点	知識・技能	65.6	75.0	75.0
	思考・判断・表現	49.5	62.1	62.1
	主体的に学習に取組む態度	60.3	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

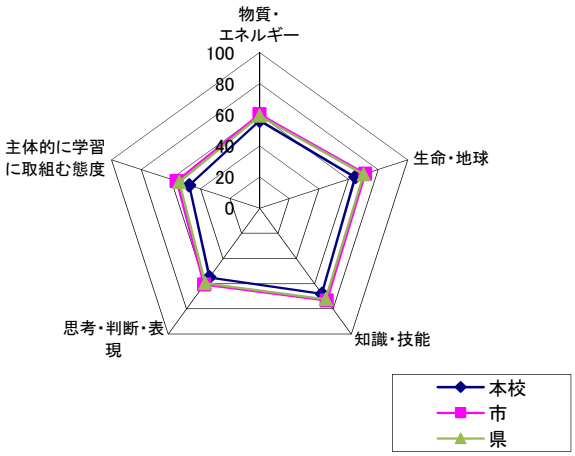
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，県・市の平均値より下回る。 ○余りのないわり算と分母が同じ分数のたし算は，正答率が90%であった。 ●繰り上がりが繰り返される整数のたし算や，繰り下がりのある整数のひき算の正答率は，県よりも12ポイント以上低い。 ●□を使った式の意味を理解したり，□を使って式に表したりできる割合が，県平均より14ポイント低い。	・計算力に個人差が見られる。基本的な問題を確実に正解できるようにドリル，プリント学習の課題に取り組むようにする。 ・教科書の学習と並行して，計算問題の計算ドリル等を活用して，正確に計算ができるように繰り返し指導していくとともに，間違えた問題は，必ずもう一度やり直すことを徹底する。 ・十進位取り法など，計算の基礎となる数の仕組等についての理解を深めるため，億の位までの数字を読んだり繰り上がり，繰り下がりのある計算問題に取り組ませるようにする。
図形	平均正答率は，県・市の平均値より下回る。 ●半径が8㎝の円を選ぶ正答率は，県よりも10.9ポイント低い。 ●コンパスを使って正三角形を描く設問の正答率は，県よりも10.6ポイント低い。	・図形の学習については，円や三角形，四角形の作図など，体験型学習を多く取り入れることで，視覚的・感覚的に理解できるような指導をしていく。
測定	平均正答率は，県・市の平均値より下回る。 ○全体の重さからかごの重さを引いて果物の重さを出す問題の正答率は，県とほぼ等しい。 ●道のりを選ぶことができた正答率は，県よりも11.9ポイント低い。 ●重さや長さでk(キロ)がつくと1000倍になるということの正答率は，県よりも15.4ポイント低い。	・日々の生活場面で，様々な単位が用いられていることに具体的にふれるとともに，実物を提示したり実際に測ってみたりする活動を取り入れ，量感を身につけることができるような指導をしていく。 ・計算の基礎となる数の仕組についての理解を深め，長さのkm，m，重さのkg，g変換など単位についての計算にもつなげられるようにする。
データの活用	平均正答率は，県・市の平均値より下回る。 ●2つのグラフから読み取れないことを選ぶ設問の正答率は，県よりも17.3ポイント低い。 ●1めもりの大きさを理解して，棒グラフを正確に読み取ることができる割合は，県よりも13.5ポイント低い。	・表やグラフを正しく作成したり，読み取ったりする基礎・基本を定着させ，数量関係を分かりやすく整理する技能を繰り返し指導し，考えや理由を文章化する機会を設け，表現力の向上を図っていく。

宇都宮市立五代小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.2	60.2	59.2
	生命・地球	64.5	71.3	70.3
観点	知識・技能	68.1	73.4	72.3
	思考・判断・表現	54.9	60.6	59.6
	主体的に学習に取組む態度	47.5	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は，県・市の平均値と同程度である。 ○電気を通す物や磁石に付く物を理解できた割合は，県平均を上回る。 ●大きい音は震えが大きく，小さい音は震えが小さいことについて正しく解答できた割合は，県よりも5.2ポイント低い。 ●糸電話は糸の振動で音を伝えていることを説明できた割合は，県よりも11.6ポイント低い。	・実験，観察など体験的な活動を多く取り入れて自然現象に身近に触れ，実験，観察の結果を表や文章，スケッチなどを適切に用いて記録できるよう，授業で支援していく。 ・実験のまとめを行うときは，事象の変化を理科的な用語を用いて記録するように授業で支援するとともに，他者への説明する機会を増やして説明する力を育てる。
生命・地球	平均正答率は，県・市の平均値より低い。 ○観察カードの内容をもとにして植物の違いを読みとる設問の正答率は，県の平均と同程度である。 ○方位磁針の使い方を理解できている割合は，県平均と同程度である。 ●ホウセンカとヒマワリの子葉を区別できた割合は，県平均より12.6ポイント低く，ホウセンカの根の様子を正しく理解できた割合は，県平均9.4ポイント低い。 ●ダンゴムシがこん虫でないことを正しく説明できた割合は，県平均10.1ポイントよりも低い。	・身近な自然の観察について，植物や昆虫などへの児童の興味・関心を，スケッチや文章で表す活動に生かしたい。その際，どうしてそのように考えたのかなど，自分の考えやその理由が文章で正しく表現できるようにしていく。 ・自分の考えをまとめる際には，どうしてそう考えたのかなど，根拠を明らかにして伝えられるよう支援する。

宇都宮市立五代小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，学校の宿題をしている」の設問では，児童の肯定的回答が93.1%で，「学校の宿題は自分のためになっている」の設問の肯定的意見率も90.1%と高かった。学校で出された宿題に関しては，必ずやるべきものとして認識しており，有益だと児童が実感している現れだと思われる。しかし，「家で，学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」や「学校の宿題は，やりたくなる内容だ」の設問では，市や県の肯定的回答に比べてやや低めであるので，宿題や家庭学習の内容を提示したり，具体例を紹介したりするなど工夫して行う必要がある。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問では，児童の肯定的割合が84.2%であり，市や県に比べて上回っている。「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」や「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」の設問でも，児童の肯定的回答が市や県を上回っている。このことから，日々の授業に話し合う活動を取り入れていることで，進んで話し合い活動に取り組む態度が育成されることで，自分の考えの深まりや広がりを実感していることが分かり，今後も継続していきたい。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の設問でも，児童の肯定的回答は市や県を上回った。話し合い活動への意欲の高まりとともに，発言や発表意欲への波及が見られる。

○「授業であつかうノートには，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」の設問では，88.1%と肯定的回答が高かった。今後も授業で「ねらい」と「まとめ」をはっきりと示し，さらに自分の考えを書いて表現することを積極的に行っていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の設問では，市や県に比べて「むずかしい」と思っている児童が多く，日ごろから自分の考えや意見を文章に表す活動を取り入れていく必要がある。

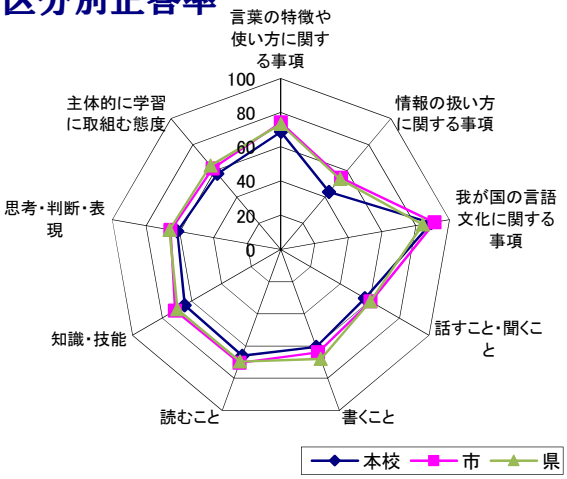
●「クラスは発言しやすい雰囲気である」では市や県と比べて低く，クラスの集団づくりと個々の役割について考えさせたり，お互いのことを口に出してほめたり認めたりする場面を作ったりする必要がある。

●「学習して身に付けたことは，将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定回答率が91.1%と高い数値であるにも関わらず，「むずかしい問題にであうと，よりやる気が出る」という児童の肯定的意見率は47.5%にとどまっている。このことから，学習の有用性は感じているが，「できない」と感じると諦めやすいことがうかがえる。そのため，できることから少しずつハードルを上げる，スモールステップの手順をふまえた授業を考えていく。そのことを通し，粘り強く問題に取り組む姿勢を育成したい。

宇都宮市立五代小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.8	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	43.9	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	89.2	91.2	84.2
	話すこと･聞くこと	56.7	60.6	60.4
	書くこと	60.4	63.8	68.0
	読むこと	66.0	70.4	69.6
観点	知識･技能	64.9	71.3	69.9
	思考･判断･表現	61.4	65.4	66.1
	主体的に学習に取組む態度	57.8	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

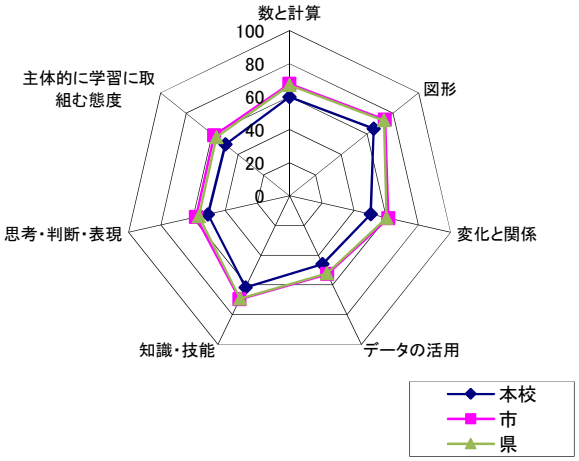
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市･県と比べて下回っている。 ○第4学年配当漢字の書きに関して，「巣」は県正答率を5.6%上回り，89.2%だった。 ●第4学年配当漢字の書きに関して，「健康」，「争う」は県平均正答率を下回っている。また，連用修飾語を問う設問では29.2%と正答率が低い。	･既習漢字が定着するよう，日頃から漢字の学習に取り組む機会を設けるようにし，指導をする際は，書き順や読みなどを意識するよう声掛けを行う。 ･修飾語を意識させるために，文章を読む際にはどの文節が主語，述語，修飾語に当たるのかを確認し，四角で囲うなどして視覚的にも捉えることができるように指導する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市･県と比べて下回っている。 ●漢字辞典の使い方を問う設問では，県平均を16.7ポイント下回り，58.3%だった。 ●情報と情報との関係について理解し，理由や事例などを挙げながら話しているかを問う設問では，県平均を10.4ポイント下回り，34.2%だった。	･定期的に漢字の学習の際に，漢字辞典を使って調べる機会を設けるようにする。 ･複数の情報から読み取れることから自分の考えをもち，理由や事例などを挙げて話すように指導する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，県を上回り，市と同程度である。 ○ことわざの意味を知り，正しく使っているかの設問では，県平均正答率を5ポイント上回り，89.2%と高い。	･定期的にことわざの意味を調べたり，覚えたことわざを場面を想定して例文に書いたりするよう指導する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市･県と比べて下回っている。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えているかを問う設問では，県平均を上回り54.2%だった。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉え，自分の考えをもっているかを問う設問では，県平均を7.4ポイント下回り，47.5%だった。	･相手が伝えたいことの中心を意識して話を聞いたり，相手の考えと自分の考えを比べたりしながら話をできるように指導する。 ･日頃から自分と相手の考えを共有する機会を設ける。
書くこと	平均正答率は，市･県と比べて下回っている。 ○「読み聞かせ会」をよりよくするためにはどうすればよいか，自分の考えを書く設問では，県正答率と同程度の70.8%だった。 ●指定された長さで文章を書く設問では，県平均正答率を10.4ポイント下回り，57.5%だった。	･文章の中で重要だと思う個所に線を引くなど他の分と差別化を図り，適切に読み取ったことを相手に伝わりやすい文章にまとめることができるよう指導する。 ･国語の授業において100字程度の要約を行ったり，作文を書く機会を設け，推敲する時間を確保したりする。
読むこと	平均正答率は，市･県と比べて下回っている。 ○叙述を基に登場人物の気持ちを捉える設問では，県平均正答率と同程度であり，85%以上と高い。 ●登場人物の気持ちの変化や情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する設問では，県平均正答率を下回っている。	･文章を読む際には，各段落に何が書かれているのか要点を押さえながら読むことが習慣づくように指導していく。 ･文章全体を通して，各場面の出来事と登場人物の気持ちを関連付けて読み取り，それぞれのつながりを意識して読むように指導する。

宇都宮市立五代小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.9	67.8	67.0
	図形	65.2	73.9	73.1
	変化と関係	50.4	61.4	60.2
	データの活用	46.0	52.7	52.1
観点	知識・技能	61.6	69.7	69.2
	思考・判断・表現	50.7	58.1	56.3
	主体的に学習に取組む態度	49.8	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

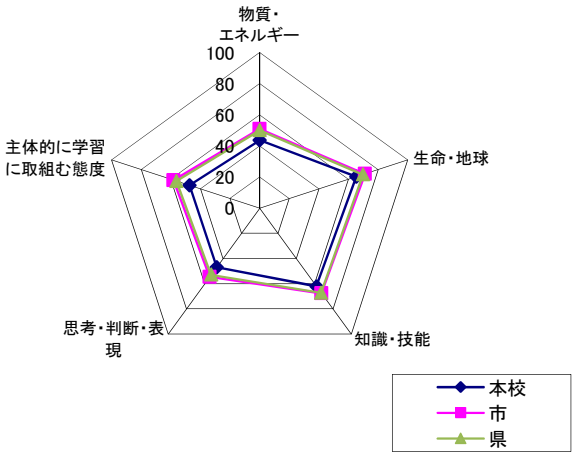
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，県・市の平均値を下回る。 ○億と兆，がい数の表し方について，数の相対的な大きさを問う設問では，県平均を5ポイント上回る。 ○小数・分数のしくみや数の大小を問う設問では，県平均と同程度またはやや上回る。 ●十進位取り記数法のついての設問では，県平均を10ポイント以上下回る。 ●簡単な割合について，基準量を求める設問では，県平均を10ポイント以上下回る。	・数の概念についての理解をしっかりと図り，大小比較や筆算での計算の場面では，位を意識させて取り組めるようにする。演習問題に多く取り組ませ，復習する機会を多く設定することで，数量感覚に対する定着を図る。 ・技能に個人差が大きいので，個に応じた支援を行い，定着を図っていく。
図形	平均正答率は，県・市の平均値を下回る。 ○長方形の面積を求める設問では，県平均と同程度である。 ●直方体の平行な辺についての設問や，ひし形の作図については，県平均を10ポイント以上下回る。	・日常生活の中で図形を見出したり，図形と図形を関連付けたりして，図形のもつ特徴や性質に関心をもてるような活動を多く取り入れる。 ・面や辺，点，角など図形について視覚的に示し理解を深められるよう，ICT機器や模型を活用した授業を行う。 ・作図については，図形の定義や性質をもとに正しく理解できるよう，繰り返し指導する。
変化と関係	平均正答率は，県・市の平均値を下回る。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値からもう一方の値を求める設問では，県平均と同程度である。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表したり，基準量と比較量から求めた割合を比較して説明する設問では，県平均を約10ポイント下回る。	・数や量の関係について図や表，数直線に表したり，読み取ったりする活動を多く取り入れることで理解を深め，数量の関係を捉える力を身に付けられるようにする。 ・記述式の設問での無答率がやや高い傾向にある。どうしてそのような考え方をしたのかを説明する活動を大切にし，自分の考えについて根拠を明確にして数学的に説明できる力を付けられるようにする。
データの活用	平均正答率は，県・市の平均値を下回る。 ○折れ線グラフ・棒グラフの読み取りの設問は，県平均と同程度である。 ●折れ線グラフを読み取り，それを根拠に理由を説明する設問では，県平均を約10ポイント下回る。	・資料の特徴や傾向を関連付けて読み取ることができるようにする。また，算数での学習を，他教科での活動ともつなげていく。 ・文章の問題に粘り強く取り組み，問題を正しく理解する力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立五代小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	43.6	50.8	50.0
	生命・地球	65.2	71.1	69.8
観点	知識・技能	62.1	67.6	67.2
	思考・判断・表現	46.9	54.5	52.9
	主体的に学習に取組む態度	47.3	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は，県・市の平均正答率を下回っている。 ○「天気のようすと気温」では，１日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し，その理由を記述して答える問題で県正答率を2.1ポイント上回った。 ○「物の体積と温度」では，実験の結果をもとに，手作りの噴水の原理を推測する問題と，水・空気・金属の温度による体積変化の大きさの順番を答える問題において県平均よりそれぞれ2.6ポイント，2.1ポイント上回った。 ●特に「物の体積と力」では，圧し縮めても水の体積が変わらないことを豆腐の容器に適用する問題で，県平均より19.3ポイント下回った。 ●誤答の傾向として，正答に近いものを選んでしまうことが見られた。	・授業では，なぜそうなのか理解できるような指導を行う。また，自主学習などでは間違いやすい問題を繰り返し解けるよう演習問題を用意する。 ・学年で10%程度だが無回答の児童が見られた。時間配分を考えて解くことや，迷ったものを書くことの指導もしていきたい。 ・分野によっては，グラフを正しく読み取ることができている。教科にかかわらず，出てきたらその都度グラフを読み取る活動を取り入れたり，必要な用語をいくつか提示し，それをもとに読み取った結果を書いたりする学習ができるとよい。 ・授業で学んだことは自分の身近なところでどのように生かされているかを実感できるよう，生活とのつながりを授業の中で指導する。
生命・地球	平均正答率は，県・市の平均正答率を下回っている。 ○「動物のからだのつくりと運動」では，腕を伸ばしているときの筋肉のようすは4.2ポイント，基本的な用語の理解を問う問題で0.8ポイント，県平均正答率を上回った。基本的な用語の理解を問う問題の正答率は，93.3%であった。 ●「１年間の植物の成長」は，どの設問も県平均正答率より10ポイント以上下回った。 ●「１年間の動物のようす」では，オオカマキリの季節ごとのようすを答える問題では，県平均正答率を21.5ポイント下回り，正答率は37.5%であった。 ●誤答の傾向として，正答に近いものを選んでしまうことが見られた。	・当該学年の学習と並行して，前学年までの復習をする機会を設けられるよう，単元の導入時には関連する分野の復習を引き続き行っていきたい。 ・学年で10%程度だが，無回答の児童が見られた。時間配分を考えて解くことや，迷ったものを書くことの指導もしていきたい。 ・分野によっては，グラフを正しく読み取ることができている。教科にかかわらず，出てきたらその都度グラフを読み取る活動を取り入れたり，必要な用語をいくつか提示し，それをもとに読み取った結果を書いたりする学習を行っていく。 ・「１年間の動物のようす」は，４つ全てが正解でないと正答にならない，完全回答の問題だった。形式によらず正解できるよう，事象を関連付けたり流れをおさえたりしながら，学習内容の定着を図りたい。

宇都宮市立五代小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，学校の宿題をしている」の設問では，児童の肯定率が99.2%で，「学校の宿題は自分のためになっている」の設問での肯定率も91.6%と高かった。日々の家庭学習が定着し，自己の学力を向上させるために宿題は有益だと児童が実感している成果だと思われるので，学校での指導に加え，家庭との連携を図り，家庭学習の更なる充実を図っていく。
○「授業であつかうノートには，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」の設問では，児童の肯定率が89.2%で，「授業の最後に，学習したことをふり返る活動をよく行っている」の設問では，児童の肯定率が86.7%と，いずれの設問に関しても市や県の肯定率よりも高かった。日々の授業において児童は学習の目標やまとめを確認し，ノートにまとめることや振り返りを通して，学習内容への理解を深めている。児童の意欲を高める授業の導入や授業の終末の工夫を今後も続けていきたい。
●読書に関しては，平日学校以外で「全くしない」・「10分より少ない」の合計が40%と県・市の割合よりも高く，読書量も「1さつも読まない」・「月に1～2さつ」の合計が30.8%と県・市の割合よりも高い。本校児童は，学校以外で読書しない児童が多くいる。
●「学校の宿題をしている」の肯定割合は99.2%と高いが，「家で，学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」肯定割合は，50%と県・市の肯定割合より下回る。また「自分で計画を立てて学習している」69%と県・市の肯定割合よりもやや下回っており，平日の勉強時間は，おもに「1時間以上2時間未満」65.8%，「30分以上1時間未満」20%の児童が多く，学校で出された宿題のみの家庭学習になっている。

宇都宮市立五代小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・粘り強く自力解決に取り組み，より良く解決できる手立ての工夫	・授業の中で働かせたい見方・考え方をしっかりと確認しておき，思考の過程や根拠を表現させるための手立てを工夫する。 ・「分かりやすく伝える」という目的意識，相手意識をもたせるなど，よりよい方法で表現することの大切さを理解できるようにする。	・各教科とも，多くの領域で正答率が，県・市の平均正答率を下回っている。 ・記述式の設問で，無解答の児童が目立つ。粘り強く自力解決しようとする意欲と，それを支える基礎・基本の内容の確実な習得が必要と考えられる。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・各教科とも，多くの領域で正答率が，県・市の平均正答率を下回っている。問題解決に必要な知識や技能の確実な習得と，活用する力が十分でないと考えられる。	・基礎基本，既習内容の定着	・朝の学習の時間，授業での復習・定着の場を活用し，基礎的な内容の定着を図る。 ・算数（高学年）での習熟度別（少人数）指導において，個に応じたの指導を充実させる。 ・家庭学習の内容の検討や進め方の工夫（学年に応じた課題の検討や自主学習の指導）を行い，各種便り等で保護者への啓発を図る。